

Part 4

戯曲「火山灰地」（久保栄）に描かれた戦前の十勝の土壌と農業

スライド 18

戦前に実際に十勝に取材して書いた「火山灰地」という久保栄の有名な戯曲があります。

この戯曲を読むと当時の十勝の農業の様子がよくわかります。親戚の十勝農事試験場の場長さんに取材しているので、科学的にも確かなことを言っていたと思います。

スライド 19

この図は、雨宮場長と娘の玲子の会話の部分を示したものです。戦前には、十勝の火山灰は旭岳や十勝岳由来のものと考えられていました。

スライド 20

これは、地域のラジオ放送における雨宮場長のセリフです。開拓後 50 年に満たない十勝の農業はすでに「略奪農業」として認識されていたことがわかります。このことを農業試験場の雨宮場長の言葉として表しています。

スライド 21

当時、十勝地方で栽培されていた作物は、投機的な商品作物、豆類、でんぷん用馬鈴しょと軍需国策作物亜麻および甜菜に偏重したものでした。

これらの作物に対して与えられていた肥料は、軍需経済の中で流通していた硫安（火薬の副産物）と 過リン酸石灰 だけでした。

また、作物は商人が高く買ってくれる作物や国が軍需的に必要とする作物ばかりを単作し連作する傾向にありました。

さらに、地主は小作人を搾取すると同時に、土地の消耗を考えずに儲かる作物だけを栽培させました。